

令和5年11月10日

日本顎咬合学会
理事長殿

日本補綴歯科学会 理事長
岡山大学学術研究院 医歯薬学域
インプラント再生補綴学分野 教授
窪木拓男

第17回臨床研究デザインワークショップ開催のお知らせ

向寒の候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。さて、この度岡山大学病院と岡山大学大学院医歯薬学総合研究科が協力して、令和6年2月11日（日）に第17回臨床研究デザインワークショップを開催することとなりました。

本ワークショップは、質の高い臨床研究を実施できる人材の育成を目標とし、漠然とした臨床現場の疑問からリサーチクエスチョンを立てる方法、さらにはリサーチクエスチョンを構造化し、質の高い研究計画を立案する方法について、グループワークを通じて実践的に学ぶことができる国内でもめずらしいワークショップとなっております。

日 時：令和6年2月10日（土）16時～17時30分（予定）

令和6年2月11日（日）10時～16時45分（予定）

会 場：岡山大学鹿田キャンパス

会議名：第17回臨床研究デザインワークショップ

対 象：岡山大学医・歯・薬学系大学院生、臨床研究の基礎を学びたい医療従事者

主 催：岡山大学大学院 医歯薬学総合研究科、岡山大学病院

後 援：（公社）日本補綴歯科学会

参加登録締切：令和5年12月28日（木） 17時

参加費：無料（昼食代1000円）

ワークショップの達成目標

- 良い抄録の構造（構造化抄録の7つのステップ）を理解する。
- クリニカルクエスチョン（CQ）をリサーチクエスチョン（RQ）に構造化できる。
- RQに適した研究デザインを選択することができる。
- 種々の研究デザインの長所、短所を理解する。
- 適切な測定手法、変数を選択できる。
- 交絡、バイアスをコントロールする方法を適切に選択できる。
- 種々の研究デザインから得られた結果の限界について理解する。

- 種々の研究デザインの実施可能性、倫理面について理解する。

プログラム (予定)

講義は事前にオンデマンド配信いたします。グループワーク実施に必要な知識に関する講義ですので、必ずワークショップ参加前に受講いただきますようお願いいたします。事前講義の受講歴が確認できない場合、ワークショップのご参加をお断りする場合がありますので、ご了承ください。

配信については準備が整い次第、ご連絡します (ワークショップの1~2週間前に配信開始予定)。

講義1：構造化抄録の重要性、リサーチクエッションの構造化、概念モデル (30分)

講義2：研究デザイン 介入研究 (30分)

講義3：研究デザイン 観察研究 -コホート研究と症例対照研究- (30分)

講義4：変数の測定、測定系の信頼性・妥当性 (30分)

講義5：特別講演

2月10日 土曜日 補講

16:00-17:30 世界的レベルの臨床研究を実践するための具体的知識 (窪木拓男)

2月11日 日曜日 ワークショップ

10:00-10:05 オリエンテーション

10:05-10:30 グループワーク① (リサーチクエッションと研究意義、PE(I)CO)

10:30-11:20 グループワーク② (研究の概念モデル、研究デザイン)

11:20-11:30 休憩

11:30-12:10 ディスカッション①

12:10-13:00 お昼休憩

13:00-14:45 グループワーク③ (研究デザインの具体化、交絡やバイアスの検討)

14:45-15:00 休憩

15:00-16:30 ディスカッション②

16:30-16:45 総評

問い合わせ先

臨床研究デザインワークショップ事務局

crdworkshop@okayama-u.ac.jp

Tel : 086-235-6682 Fax : 086-235-6684